

第4学年〇組 「総合的な学習の時間」指導案

福岡市立〇〇小学校

〇〇 〇〇

1 単元名 「やさしい町 〇〇〇」～記録カードをかこう～

2 目標

- 福祉問題について、自分の課題をもち、意欲的に追究しようとすることができる。
- 「自分にできること」を実践するために調査活動や体験活動を進んで行うことができる。
- 図書資料での調べ方を知り、調べたい内容についての情報を収集し、整理することができる。
- 自分の生活をふり返ったり、友達の考えのよさに気づいたりしながら、これからの自分の生活の中に学習したことを生かしていくことができる。

3 指導の考え方

- 本学級の児童は、1学期に国語「新聞記者になろう」で新聞の書き方を学習し、取材したことや調べたことを使って割り付けをしながら新聞を書いた。その活動によって、自分の見つけた資料を順序に気をつけながら書いたり、見出しをつけたりすることはできた。しかし、図書資料を使って調べる経験がまだ少なく、調べることに抵抗がある子どもや、調べたことをどうメモすればよいのかが分からずに、調べたことをそのまま丸写しする子どもがほとんどである。また、複数の図書資料から調べたり、図書資料の中から大事なことを選んで書き出したりすることはまだ十分にできていない。
- 記録カードは、調べた情報の中から必要な内容を短くメモしたものである。記録カードには、必要な情報を①比べやすい、②選択しやすい、③構成しやすい、というよさがあると考えられる。この記録カードを使うことで、メモの仕方が分からなかった児童や図書資料をそのまま書き写していた児童は、書くスペースが限られるため、内容を選んで、できるだけ短く書こうとする。また、記録カードは一枚に一つの項目をメモするので、調べた量が児童自身にも分かりやすく、調べることに抵抗を感じていた児童の意欲づけにもつながる。さらに、図書資料からだけでなく、講師の方のお話やインタビューで分かった情報、インターネットなどで調べた情報を記録カードにメモすることで、一つの課題についていろいろな方向から情報を集めることにもつながっていくと考える。また、教師にとっても、児童の調べ学習の進み具合が把握しやすく、個々の児童に合った支援ができると考える。

- 本単元の指導にあたっては、福祉問題に関心を持ち、身のまわりのバリアフリーについて調べ、「自分にできることはないか。」を考え実践させるために、調べ学習や体験活動を位置付けながら学習を進めていく。また、問題解決学習において知りたい情報を取捨選択する力を育てるために、学校図書館でどのように図書資料を選んで調べるのか、調べ方を学ぶ活動を取り入れたい。

まず、導入段階では、国語「手と心で伝えよう」の学習を想起させる。そして、点字の体験などをもとに、課題をもたせる。

課題を解決する段階では、まず、記録カードについて学習し、図書資料をもとに視覚障がいについて調べる活動を行わせ、必要に応じてインターネットなどを活用させながら、課題を解決させる。

まとめる段階では、自分が調べたことを新聞にまとめ、友達と交流する。

その後、聴覚障がいや肢体不自由などの障がいについても知り、自分で課題を決め、もう一度記録カードを活用して、課題を解決させる。そして、友達と交流する。

最後に、学習をふり返り、自分の生活を見直し、自分たちにできることを積極的に生活の中で生かそうとする態度を育てたい。

4 指導計画（34時間）

- ①国語「手と心で伝えよう」の学習を想起して、わたしたちのまわりにバリアはないか話し合う。(1)
- ②校区を探検し、バリアやバリアフリーになっている場所を見つける。(2)
- ③点字をうつ体験をする。(2)
- ④アイマスク体験をする。(2)
- ⑤視覚障がいの方のお話を聞く。(2)
- ⑥盲導犬についてのビデオを見る。(1)
- ⑦視覚障がいについて自分の課題を決め、計画をたてる。(1)
- ⑧視覚障がいについて調べ活動をしてまとめる。(6) (本時2/6)
- ⑨まとめたことを友だちと交流する。(2)
- ⑩アイマスク・車椅子体験をする。(4)
- ⑪聴覚障がいについて知る。(2)
- ⑫自分で課題を決め、計画をたてる。(1)
- ⑬課題について調べ学習をしてまとめる。(4)
- ⑭まとめたことを友達と交流する。(2)
- ⑮活動をふり返り、自分の生活をふり返る。(2)

5 本時 平成21年10月19日(月) 5校時14:10~14:55
〇〇小学校 学習図書館

6 本時の目標

- 記録カードの書き方を理解し、調べたことを記録カードに書くことができる。

7 準備

記録カード(教師用・児童用)、参考図書を拡大した物、付箋、ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン

8 本時指導にあたっては、まず、新聞づくりや理科の調べ学習を想起させ、どうやって調べたらいいのか分からなかったことや、調べたことをどうメモすれば良かったかが分からなかったこと等を出し合い、記録カードを使うとよいことを知らせる。記録カードにどのような内容を書くか知らせるために、参考図書を提示し、拡大した記録カードに必要事項を記入しながらポイントを理解させる。次に、事前に選んでいた各自の課題に合う図書資料を使って調べ、記録カードに記入する。そして、提示された友だちの記録カードと自分の記録カードを比べて、記入の仕方を確かめ、今後の学習の見通しを持たせる。

また、図書資料を一人に一冊は提供できるように、中学校ブロックや博多区の司書教諭と連携をとり、図書資料の貸し出しを行うようにした。

9 展開 (12/34)

| 学習活動と内容 | 支 援 (※評価) |
|--|--|
| <p>1 前時をふり返る。</p> <p>2 本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>記録カードの書き方を知り、自分の課題について調べたことを書いてみよう。</p> </div> <p>3 記録カードの形式や作成の手順を知り、書くときに気をつけることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの資料を使った記録カードを提示し、書き方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ 記録カード作成のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1枚の記録カードに調べたいこと（見出し）を1つ書く。 ② 大切なところだけを書く。 ③ 出典を書く。 ④ 調べた本のページを書く。 </div> <p>4 各自の課題にあった図書資料で調べ、わかったことを記録カードに書く。</p> <p>(1) 目次や索引などを見ながら、必要な内容を見つける。</p> <p>(2) 記録カードに書き込む。</p> <p>5 本時の学習をふり返り、次時への見通しをもつ。</p> <p>(1) 記録カードの書き方を確かめ、記録カードをつくった感想を発表する。</p> <p>(2) 次時の内容を確認し、調べ活動の見通しをもつ。</p> | <p>○ よりよい調べ学習にするには、記録カードを使うとよいことを知らせる。</p> <p>○ 活用しやすいカードにするためにどのようなことを記入すればよいか知らせる。</p> <p>○ 参考例として、教師が拡大した記録カードに書き込みをしながらポイントをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分からない言葉は調べる。 ・ 出典の内容を知らせる。 ・ 記録カードにメモした所には付箋をつけさせる。 <p>○ 一人に一冊図書資料を準備し、図書資料を共有できるように、同じ課題を持つ児童を近くの席にする。</p> <p>○ 必要な情報を見つけられずにいる児童には、一緒に目次を開くなど、探す手助けをする。</p> <p>○ かじょう書きができる児童にはかじょう書きをすることを知らせる。</p> <p>※記録カードの作成のポイントを落とさずに、記録カードを書くことができる。</p> <p>○ 児童の書いた記録カードを提示し、書き方を確認させる。</p> |

